

# 玉造タックを訪れて



【タック】は、若年性認知症の人、病気や介護などのために離職した人などが、生きがいとして通っている「仕事（作業）の場」である。【タック Tack】はスウェーデン語で「ありがとう」の意味を持つ。またヨットの帆の向きを変えることを、タッキングと言う。日々感謝しながら、帆の向きを変え自発的に進んでいけたらよいという思いを込め、名づけられた。運営は NPO 法人認知症の人とみんなのサポートセンター。当事者は【タック】に週 2 回集まり、くるみボタンを活用しバッジなどを作りメッセージを入れて販売し、皆の思いを社会に伝える活動を行っている。

**活動場所：大阪市東成区東小橋 1-18-33**

**活動日時：毎週月・木曜日 10 時～ 15 時 祝日は休み（平成 29 年 4 月より）**

## 【タック】の一日

当日は JR 玉造駅で他の参加者、スタッフと集合し、【タック】を訪問しました。

当日の参加者は男女 6 人。まずはスタッフの司会でみなが自己紹介をし、その後本日のスケジュールを確認し、作業に取り組む流れとなりました。1 日の「くるみボタン」作業時間は午前・午後の各 1 時間 30 分程度です。効率を上げるため、各工程に分かれて作業が行われています。今回は初心者の私たちのために、全工程を皆で一緒に行いました。経験数や参加者の個性の違いで、作業のスピードに違いがみられましたが、スタッフの適切な声掛けで作業が進みました。参加者が自発的に音楽を流し、穏やかな空間で集中しくるみボタンを製作していました。初めは緊張した表情の参加者でしたが、お互いの自己紹介で打ち解け、くるみボタンの組み立て作業に苦戦する私達をサポートしてくれ、「くるみボタンのバッチ」を完成することができました。

昼食後はラジオ体操、作業、振り返り、掃除を行い「タック」の 1 日は終わります。



## 【タック】の工夫

参加者で記憶障害のある方のため、手帳を利用したり、A3 版用紙に当日の自己紹介内容（名前、趣味など）やスケジュールを、スタッフが書留めて壁に貼り、困った時に自分で確認できるように考慮されていました。スタッフは、マイペースで話や作業が脱線してしまう参加者や、一人で他の作業をしたい参加者に対してはその人に寄り添った対応をされ、作業に集中できる環境を作られていました。介護保険サービスではなく、「仕事（作業）の場」であることを意識した対応がなされていました。

【タック】の登録者は現在 20～30 人ほどです。当日は若年性認知症の方や高齢者、休職中の方も参加されていました。代表の沖田氏は作業所内でも参加者の家族の相談を受け、即座に対応されていました。

## 【訪問後記】

【タック】は仕事（作業）の場としての機能だけでなく、若年性認知症をコーディネートする窓口としての役割も果たされています。認知症の人とみんなのサポートセンターの長年にわたる活動により、地域での医療・介護・福祉との連携が築かれ、今後も若年性認知症支援のハブ機能を持った施設として活動されていくと思いました。



## 【タック】参加者より

同じ病気の人たちと話せるからいい  
家にいるだけだったら、うつになって  
いたと思う  
できるだけいろいろやっていきたい